

北神けいろうの国政報告：3月号

いつも大変お世話になっています。

私は昨年選挙から、ずっと活動しています。皆様からは、私が思っていた以上に、温かい激励をいただき、感謝の毎日です。

TPP の意義

さて、今月は、TPP の話です。私は、一昨年から経済産業大臣政務官として、この件について直接かかわってきました。賛否両論ありますが、私は、やはり、**日本がTPPに限らず、世界各国と自由に貿易したり、投資をしたりすることは、きわめて重要**だと考えています。

もちろん、**農業も大事**です。日本の医療も基本的には維持していくべきです。ただ、農業予算は毎年2兆円強。医療予算は、35兆円。他方、我が国で、一番お金を稼いでいるのは、**ものづくりの産業**です。こうした企業が、海外に出てしまうと、**税収が激減し、仕事もなくなり、地域の活力もなくなります**。

もっと大局に立てば、我が国は、企業が優れたモノを輸出し、外貨を稼いできました。この外貨で、食料や石油、天然ガスなどを輸入して、国民を食べさせてきたのです。この構造は、予測できる限り、変わりません。

当然、何が何でも TPP に入るべきだということではない。今、問題になっているのは、交渉するかどうか、という次元の話です。「結婚をします」ではなく、「お見合いをさせてください」ということです。この程度のことで、怖じづけている場合ではない。

「いや、交渉に入ったら、アメリカの言うことを聞かざるを得なくなる」という警告を鳴らす方もいます。

そこまで卑屈になる必要はありません。**本当に、そこまで我が国が米国のいいなりになっているのであれば、そもそも交渉を拒否することもできないはずではないでしょうか。私が政務官だった頃、事態はまったく逆。米国は日本の交渉参加には意外と慎重**でした。自国内の自動車を守りたいので、日本が TPP に入ってきて、関税を撤廃されて、日本車が流入するのを恐れていました。こういう経験からも、「米国陰謀論」は滑稽にさえ思われます。

先日、**安倍総理は訪米の後に、『「聖域なき関税撤廃』が前提でないことを確認したので、TPP 交渉に入りたい』と表明**しています。これもよく分かりません。大体、**本当に関税撤廃が絶対条件であるならば、交渉する意味がないはず**です。わざわざ各国が時間をかけて、交渉をしているのは、まさに農業をはじめ各分野について、各国がそれぞれの国益に基づいて、例外を設けたり、時間稼ぎをしたりしようとしているからです。

私の知っている外交筋の関係者によると、**今や中国でさえこの TPP に強い関心を示しています。韓国は、すでに米国と FTA を締結**をしています。日本は世界の中で活躍して、はじめて**大国として存在感を示し、国民の豊かな生活を守ることが**できます。繰り返しますが、「結婚をする」ということではなく、「お見合い」です。そのくらいの勇気を奮っていかうではありませんか。